

国見町は、千年以上育まれてきた国見の歴史・伝統・文化をこれから百年後に伝えていくため、これらを生かした「歴史まちづくり」を進めています。このコーナーでは町や地域が行っている取り組みについて、毎月お伝えしています。

【あつかし歴史館 ☎ 585-4520】
【企画調整課地域振興係 ☎ 585-2967】



仙台圏「モニターツアー」を実施しました

宮城県の仙台圏在住の方を対象とした「モニターツアー」を10月25日に実施し、50代から70代の10組20名が参加しました。

ツアーでは、町内飲食店の「彩季亭」自慢の甘酒に始まり、奥山住宅、あつかし千年公園を見学しました。夕食は、イタリアンレストラン「トラットリア・ダ・マルティーノ」で、地元食材を使ったシチリアン料理を堪能した後、同日に開催された鹿島神社例大祭の「もみ合い」を見物し、町の歴史・食・文化を堪能した1日となりました。

ツアー後に実施したアンケートでは、参加者全員が「また来たい」と回答し、町の魅力を存分に伝えることができました。



職員の案内を聞きながら、奥山住宅を見学する参加者

東京ふるさと国見会 歴史講演会「国見を深堀り！歴史編」

11月8日に開催しました「東京ふるさと国見会」で、国見町の歴史を深堀りする講演会を実施しました。

講演では、旧石器時代から明治維新以降の近代化に至るまでの変遷や境界の地かつ交流の要衝地であった国見町の地政学的特徴、これまで培われてきた歴史は、国見町の「たからもの」であることを解説しました。参加者からは当時の写真や地図について質問が相次ぎなど、郷土愛を再認識できた時間となりました。



町の歴史について真剣に聞き入る参加者

まちあるきイベント「西大枝“歴史の道”を歩く」を開催

11月16日、秋晴れの下、国見町郷土史研究会によるまちあるきイベント「西大枝“歴史の道”を歩く」を開催し、町内外から41名が参加しました。

イベントでは、講師の解説により、王壇古墳や竹ノ内遺跡など約3.5kmのコースを歩きました。地元参加者からは「身近な場所での新たな魅力発見につながった」、町外からの参加者からは、「柿干場などの景観や靈山を見渡せる眺望が素晴らしい」などの声が寄せられ、国見町の魅力に触れた1日となりました。



ウォーキングしながら町の歴史を学びました

— Activity Report —

Vol. 59

地域おこし協力隊活動日記



濱村 和生

子どもたちの“学ぶ力”を育むために！

こんにちは！地域おこし協力隊2年目の濱村和生です。公営塾「放課後塾ハル」スタッフとして活動しています。

先日行われた国見町駅伝競走大会に参加させていただくなど、町民の皆さんとの温かさに支えられながら、楽しく活動しています。

今年度は、公営塾で中学1・2年生を対象に、英語と数学を中心とした「学びの習慣づけ」の授業を担当しています。授業では、基礎学力の定着はもちろん、家庭学習の時間の確保や、間違いを恐れずに発言できる雰囲気づくりに力を入れています。子どもたちが自分で考え、学習計画を立て、振り返ることができるようになる、その積み重ねが“将来にわたって使える力”につながると信じています。

これからも地域と連携しながら、国見町の未来を担う子どもたちの“学ぶ姿勢”を一緒に育んでいきます！



▲公営塾「放課後塾ハル」の授業の様子



▲公営塾「放課後塾ハル」の授業の様子

今から二百年以上むかし、西宮院和尚という修験者の坊さんがいたそうです。修行のかたわら寺子屋の師匠もしていて、河原から小石を拾つて来ては、それにお経を書くという平和な毎日を送っていました。坊さんは毎日お経を書くたといいます。

さてこの和尚の一番の樂しみは毂碁を打つことで、この地方の名人を負かすほどの名手。和尚に負かされた名人が大層恨みに思い、ある時、和尚が保原からの帰りを手下に待伏させ、とうとう殺してしまったそうです。恐らくお振舞い酒席からの帰り道でも

その時討った人は、照内の剣豪佐久間という人だったといいます。ただ和尚は修験者ではありません。ただ和尚は修験者。武芸があれば、むざむざ討たれはしなかつたでしょう。それは武芸があれば、むざむざ討たれはしなかつたでしょう。その後、和尚の靈を「死靈權現」として祀り、木刀を上げて靈を慰め、戦時出征兵士は木刀を奉納して無事の帰國を祈つたといわれ、今でも西宮院の墓を動かすと祟りがあると伝えられています。



【第三十回】
国見の民話
かるた
【やみ討ちにあつてくやしい】

西宮院和尚の墓のこと
【第三十回】
かるた